

# ご存知ですか

## 「声のボランティア」

毎月1日号、15日号を発行し、皆さんにお届けしている「市報むらかみ」。この広報紙を目の不自由な人などのために、声に出して読み、録音する（音訳）活動をしているボランティアグループがあります。

今回の特集では、この大切な活動をしている「声のボランティア村上」を紹介します。

そこには、ボランティアグループ皆さんの1人ひとりの熱い思いがありました。



音だけで紙面の情報を伝える

「声のボランティア村上」は、メンバー17人を3班に分担して活動しています。「市報むらかみ」のほかに、「議会だより」や「社協だより」などを年間30回以上音訳し、目の不自由な人に届けています。

広報紙は、文章だけでなく写真やグラフなどと組み合わせて構成され作成されているので、読み物とは言え、目で見ながら情報を得なければなりません。この目で見える情報を得られない人のために、耳で聞く音だけで情報を届けるのが「音訳」です。

そのため、ただ文章を読むだけではなく、文字や写真、表などを声だけで表現し、正しく伝わるように読まなければならぬ技術が必要となります。

### 時間のかかる作業

メンバーは「市報むらかみ」を発行日前日の夕方に受け取り、読むページの担当を決めて、自宅で下読みし、翌日に生涯学習推進センター（マナボテ村上）に集合して録音しています。遠くは関口集落から駆け付け、収録に臨むメンバーもいます。この録音は、とても時間のかかる作業です。特に毎月1日号は本体とお知らせ版があるためページ数も多くなり、午前9時から始めて午後3時ごろになることもあり、1日がかりの作業となります。



代表の宮下真弓さん

## それぞれの思い

代表を務める宮下真弓さんは、もう10年以上も続けているベテラン。

「目で見る広報紙と声で聴く広報紙は、全く違います。グラフや図などを言葉でどう表現す

ればうまく伝わるのか、今でも悩んでいます。自分が楽しいと思っ内容でも、あえて感情を入れずに読むことも必要です。記事の内容の感じ方は、人によって違いますからね」と話します。広報紙は、目を引くような見出しやレイアウト、図、写真な

ど視覚を意識したつくりになっていきますので、言葉だけでは表現しにくい紙面になっています。宮下さんと同じグループで活動する田中セツ子さんは、

「昔は、カセットテープで録音していましたが、パソコンで取り込めるようになって、ずいぶんと楽になりましたよ。カセットテープのころは、間違えるたびに巻き戻す作業にずいぶんと時間がかかりましたからね」と当時を振り返ります。

2年前に声のボランティアの募集記事を見て、会員となった稲葉モトさんは、

「実際に相手が聞き取りやすいように心がけながら、読み方を工夫していますが、利用者が本当に聞きやすいのか、どのように感じているのかよと不安ですね」と語ります。稲葉さんは仕事をしていますので、休みの日にこの声のボランティアの活動をしています。

実際に録音されたCDを利用している本間さんは、

「市の動きがわかるので、大変助かっています。表紙の写真なども丁寧に声で説明してあるの



で、情景が浮かびます。声のボランティアの皆さんには本当に感謝しています」と話してくれました。

あまり表に出ないボランティアだからこそ

宮下さんをはじめとする「声のボランティア村上」の皆さんからお話を聞いてみると、他のボランティア活動と違い、目立たずにマイペースでやれることも自分たちに合っていると感じているようです。

この活動を通して、読めない字を調べたり、仲間と音訳の表現の仕方を話し合ったりすることで、自分自身の学ぶ気持ちを向上させながら、聞く人のこと

を一番に考える意識が伝わってきます。昭和56年から始まったこの活動は、30年以上代々受け継がれ、地道に活動を続けています。今回の取材で、このような人たちに支えられて、多くの人に広報紙が読まれているのだと実感することができました。感謝の思いを胸に、「市報むらかみ」のさらに充実した紙面づくりを目指します。

社会福祉協議会では、「市報むらかみ」を音訳した「CDデジタル図書」や「カセットテープ」を無料で配布しています。視覚に障害がある人や文字が見にくくなり音声による情報が必要な人など、配布を希望する人は、ご連絡ください。

●問い合わせ 社会福祉協議会  
☎53-2111 (内線128)